

世田谷から世界の子供たちを支える

世田谷区にある文教学院は、30以上地域の子供たちを支えている地域に密着した塾だ。その塾が地元のみならず、オンライン指導によるグローバルな展開をおこなっている。個人塾でありながら、海外で暮らす日本の子供たちに指導をする文教学院のユニークな試みについて、桐山寛子代表とオンライン事業を担当する端野良彦氏に話を聞いた。

ペンを活用するオンライン指導

—なぜオンラインで指導する塾を始めたのですか？

端野 世田谷区は、幼児の人口は増えていますが、私学に進学する子供たちが多い土地柄です。要は公立校には生徒が少ない。そういった中で、世界に目を向ければ生徒が来る可能性があると考えました。

最初は、Skypeを使い、ペ



桐山寛子代表

ンで書いたものを生徒に見せることができばうまくできるんじゃないか、と考えて実験をしてみました。ちょうどタイに姉がいたので、実験をやってみました。授業はできたのですが、ただ、いちいち生徒にスカイプを教えて、設定しなくてはならない。これは難しいねとなったときに、今システムを提供してもらっているVQSとの出会いがあり、それが大きかった。

私は、ペンにこだわらなくなったんです。日本では、例えば漢字の「と

め・はね・はらい」が国語で重要とされているわけですから、こういうところをどうしても学ばせなかったのですが、VQSもペンにこだわっていたのがまさに出会いですね。※1。

—ペン以外にもVQSのシステムを選んだ理由は何ですか？

端野 生徒にシステムをセットさえしてもらえば、待ち合わせをして、その時間にネットを繋ぐだけで、その他の細かい機能をいちいち設定しなくていいところですね。

桐山 VQSのシステムはすばらしいです。小学校1年生の授業では、漢字ノートに漢字を10回書くというのが宿題になっています。このシステムのいいところは、画面上で消しゴムが使えることです。実際に生徒が間違えたらそこを自分で消して、また書き直したりできるんです。

大手の手が届かない子供たちのために

桐山 娘がその後サンフランシスコに住むようになり、駐在の日本人と現地に住んでいる日本の友人に私たちの塾を紹介してくれたのがきっかけで、「やってみよう」という話になりました。だから本格的にオンライン指導が始まったのは、サンフランシスコです。

それからもう4年くらい経ちます。最初に指導したうちの一人は日本に帰ってきて、今年受験してICU(国際基督教大学)に合格しました。もう一人はアメリカ在住なので現地の大学に進んでいます。今は、ポーランドにも生徒がいます。

—ポーランドですか？

桐山 そうです。ネットから問い合わせを頂いて、指導しています。

端野 タイは結局日本人が多いんですね。そうすると、現地にもやっぱり日本の学習塾が進出してきて、そこまで需要がなくな

た。それが、ポーランドとかに行くと、現地校に日本人が全学年で1〜2人しかいない。当然日本人学校もなかったの、本当に塾に通いたいけど通う術がないという子供たちがいる。そこでサービスを提供しようと思えました。

ただ、ポーランドは時差が7時間か8時間マイナスなんです。そうすると向こうでは、夕方に学校から帰ってきて塾をやるうとすると日本時間の午後11時または午前0時からになってしまうんです。

それでも、午前0時からの授業をやりたくて仰ってくれる先生もいました。ただ、どうしても困難な面もあったので、アメリカ

で先生を探して、日本のシステムを使いながら、アメリカの先生がポーランドの生徒に授業をするというような形をとっています。一時差をうまく使いつつ、東京とアメリカで授業をすることによって、全世界的にやっつけていると思っています。

—大学受験までサポートしているわけですね。

桐山 うちの先生たちは、今のところ大学院を出ない人はいません。ポスドクの人とかも結構いて。そういう意味では、時給も高いのですが、その代わり大学の小論文対策も行なっていますし、全員合格しています。それこそ上智大学とかお茶の水女子大学などです。

—大学受験までサポートしているわけですね。

文教学院が見据える未来

—今後はさらに生徒を増やしていきたいとお考えですか？

端野 そうですね。あとは国内の島嶼部にもアプローチできればと思っています。ネット塾の場合同じ生徒数に限界はないと思っ

ていたので。でも、私たちが対応できるのは、1年間にせいぜい50人くらいしかできない。その中で、50人を集めて来られるようなシステム作りと、営業方法を考えてやっていきたいと思っています。ただ、映像講義を導入するといったつもりは全くありません。20年後でも、ペンと紙を持って、生徒が手を動かす塾でありたいと思っています。また、世田谷に教室があることは重要だと思っています。日本に帰国してからそのまま通うお子さんもいるので。AIが今後発展していく中でアナログを大事にしていきたい。大手塾と戦う気もないので、そういう変わった塾があってもいいんじゃないかなと思っています。

※1 VQS株式会社
VQS コラボレ



オンライン授業の様子



桐山氏と端野氏が描くビジョンは、中小の塾にとっても参考になるだろう

ringing」は、塾予備校・学校向けに作られた遠隔授業システム。ウェブ会議システムをベースに、手書き入力デバイスによる書き込みが連動するホワイトボードが特長。